

アジア・オセアニア地域における渡り鳥の越境保護ガバナンス： プロジェクト・キックオフワークショップ

■日時 2022年11月8日（火）9:30-11:30

■場所 ZOOMによるLive配信

<https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/join/temdec-med-kyushu-u-ac-jp-zoom-us-meeting/register/tJMocu6grTopHNO6ROeGHtGoF7oyZvbZyK2x>

■言語 主に日本語（英語で適宜補足します）

■概要 アジア・オセアニア地域は、世界に9つある主要なフライウェイ（渡り鳥のルート）の中で、もっとも種の多様性が高い一方、鳥の個体数が著しく減少している地域とされる（Amano et al. 2010；WWF 2015）。例えば、絶滅危惧IB類のクロツラヘラサギ（Black-faced Spoonbill、以下BS）は、主に朝鮮半島で繁殖し、冬期には、東南アジアや中国、台湾、日本等で越冬をする渡り鳥である。12月頃になると、九州大学の近くにある今津干潟や佐賀県の東よか干潟、沖縄県などで観察することができる。今津干潟における観察調査によると、BSは湿地のみならず、周辺の水田や小水路、ヨシ原などを広く利用している（清水2021）。BSを適切に保護するためには、湿地を自然保護区に指定するだけでは不十分で、周辺環境の持続可能性も担保される必要がある（例えば、減農薬による水田の維持等）。本プロジェクトでは、多国間にまたがるフライウェイの越境保護ガバナンスの研究に加え、生息環境モニタリングや保全を推進するソーシャルビジネスに着目して、学融合型の研究を行う。今回は、そのキックオフワークショップである。

■対象者 クロツラヘラサギなど、渡り鳥や国境を越えた自然保護、生物多様性や持続可能性などに関心のある方

■タイムスケジュール

Time	Presenter	Title
09:30-09:45	田中 俊徳 准教授	プロジェクトの紹介とワークショップの目的
09:45-10:10	天野 達也 博士	東アジア-オーストラリア地域フライウェイにおける渡り性水鳥の保全
10:10-10:25	清水 孟彦 氏	今津干潟におけるヘラサギ類の干潟と周辺環境利用
10:25-10:40	蕭 耕偉郎 准教授	台湾におけるクロツラヘラサギの保全状況
10:40-10:55	バッタ・クマル 特任助教	鳥類保全の社会的側面に関する文献調査
10:55-11:25	講演者、参加者によるオープンディスカッション（日英両語対応）	
11:25-11:30	閉会の挨拶	

■講演者



座長
田中 俊徳 准教授
九州大学アジア・オセアニア研究教育機構



基調講演
天野 達也 博士
Deputy Director, Center for Biodiversity and Conservation Science, University of Queensland

蕭 耕偉郎 准教授
九州大学大学院人間環境学研究院

バッタ・クマル 特任助教
九州大学アジア・オセアニア研究教育機構

清水 孟彦 氏
北海道大学大学院 修士1年



本ワークショップは、2022年度「九州大学人社系学際融合プログラム」の助成を受けています！